

紛争の遺産

世界川物語

ドナウ川 (セルビア)

ドイツに源を発し、黒海に注ぐ欧州第2の川ドナウ。かつてここを往来した貨物船は観光クルーズ船に、川沿いの倉庫は現代的なカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの周辺にある。

忘れない日

カップルや家族が夜遅くまで語り合う川べりのレストランの売り物の一つは新鮮な魚料理。食卓に供する直前に地元のカフェやレストランの川漁師らが近くの川で取ってきたものだ。

「川の恵みは市民になってはならないものだ。その川の水やここにすむ生き物に目に見えない汚染が広がっているかもしれない。でも、誰もそれを分かっていない」。化学が専門のベオグラード大准教授、ウラジミール・ベスコスキー(38)が、流れを見詰めながらつぶやく。

ゆったりとしたサバ川の流れを受け入れ、ドナウ川はさらに水量を増してかなたまで続く。ローマ帝国の時代から川の合流点を見下ろす丘の上に立つベオグラード要塞(よっさい)から見下ろすと、ここに暮らす人々と川の大切な関わりが見えてくる。



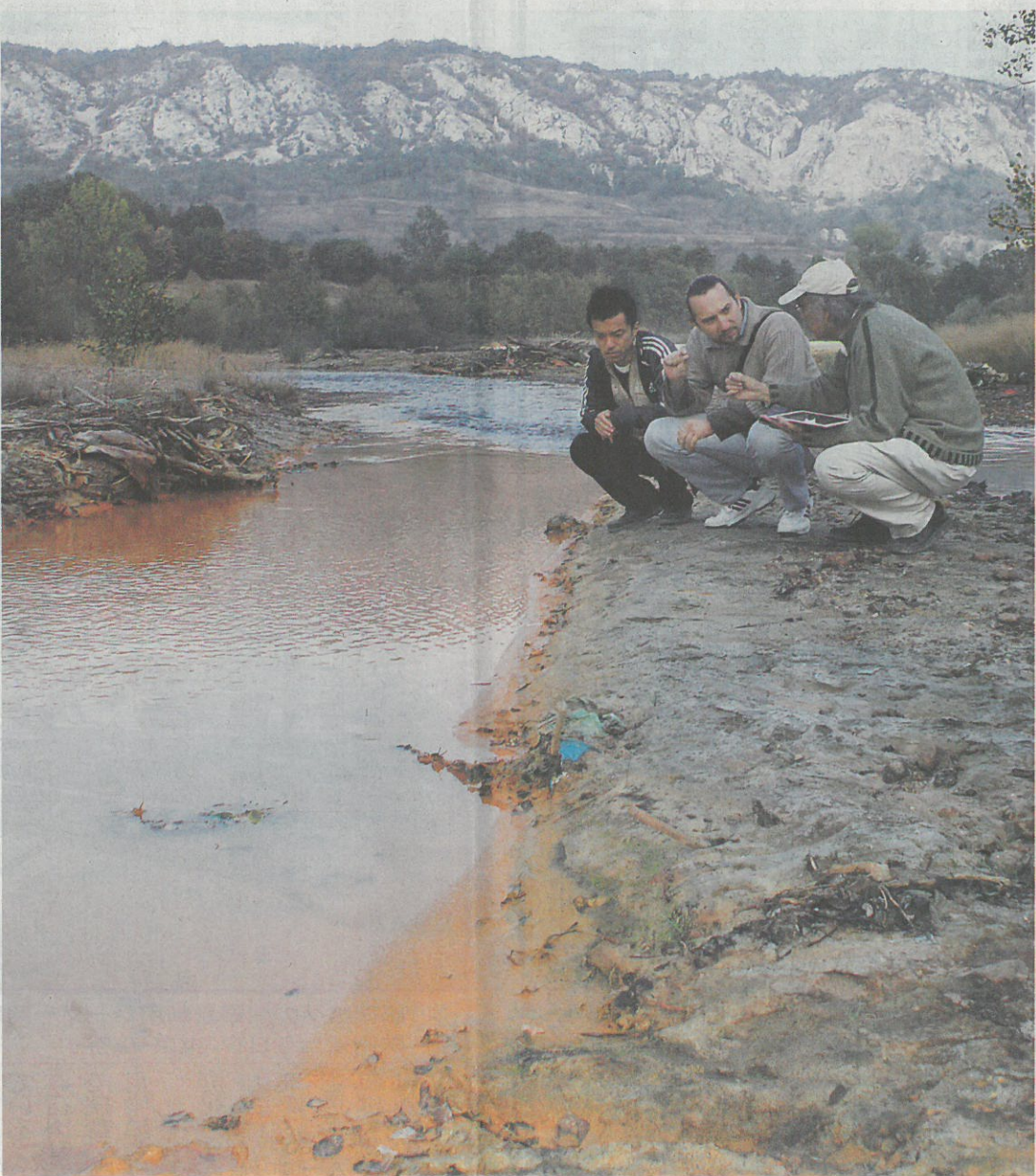
見えぬ汚染との闘い

年のあの日のごときを今も鮮明に覚えている。3月24日、遠くから響く飛行機の音、さく裂する爆弾の音と衝撃。立ち上る黒煙。ベスコスキーは大学近くのアパートの一室で、おののきながら見詰めていた。爆撃された製油所は何日にもわたって燃え続け、黒煙が空を埋めた。

民族対立に端を発したコンボ紛争で北大西洋条約機構(NATO)はユーゴスラビアを空爆、セルビアの工場や発電所、石油精製施設などは徹底的に破壊された。約3カ月続いた爆撃の後、ドナウには「有毒の遺産」と呼ばれる、目に見えない汚染が残された。発電所や工場からはポリ塩化ビフェニール(PCB)などの有害化学物質が大量に川に流れ込んだのだ。

空爆直後、国連は化学物質汚染を確認するため、調査チームを派遣する。汚染の深刻さゆえに「ホットスポット」と称された場所の多くはドナウ川に面していた。

高濃度PCBを含む変圧器などは撤去、処理された。しかし、工場廃水などに含まれる有害物質に紛争の遺産が加わり、汚染は今も続いている。後にベオグラード大学の研究チームは、首都周辺の魚に高濃度のPCBなどが蓄積していることを突き止めた。しかしサンプルが少なく、実態は分からないままだった。



奨学金返済収入で変動

17年度導入 回収強化へ柔軟化

文科省

文部科学省は5日、所管する日本学生支援機構が大学生らに貸している無利子奨学金の返済額を、卒業後の所得に応じて変動させる制度を2017年度にも導入することを決めた。就職しても収入が低い人の負担を軽くする一方で、高所得者からは早めに貸与金を回収するのが狙いだ。

無利子奨学金は現 かけて返す仕組み。12の制度もできた。在、貸与額に応じて年 年度からは年収300 新制度では、年収3 間おおよそ十数万円を 万円以下の人の返済を 00万円を超えても経 済的に苦しい若者の返 限を越えた未返済額は

返済額を年間数万円まで抑え、その後、収入が高くなれば自動的に返済額を増やす仕組みに変える。返済総額は変わらない。景気悪化などの影響で奨学金を返済できないケースが目立ち、期限を越えた未返済額は

11年度末で過去最高の約876億円となつて約876億円となつての正確な収入の把握が前掲。早ければ16年にいる。同機構は督促を必要になるため、納税 始まるマイナンバーの強化しているが、回収 と社会保障情報を共通 運用後となる。番号で管理する「マイ 文科省は「奨学金返 いる。

文科省調査前回は8割増 NIEの効果

児童の閲覧用として図 活用するNIE(教育 いる。 書館に新聞を置いてある に新聞を)の取り組みが 文科省に 公立小学校は、昨年5月 全国で広がっており、政 館に新聞の 時点25%に上り、20 府は12年度から5年間、 5076校、 10年の前回調査より8 小中学校に新聞1紙を置 42校。公 学校で新聞を教材とし るのではないかとしてい

「小学校に新聞」25%

費上昇したことが5日、 く費用として毎年15億円 並みの32、 文部科学省の調査で分か を計上。文科省は「年度 上がった。公立中学校も4 途中の集計なので、次回 調査ではさらに増えてい 紙、高校は 学校で新聞を教材とし るのではないかとしてい